

「吉野東中学校の「私たちの校区にある世界遺産『寺山炭窯跡』ガイドボランティア」の取組

1 学校名

鹿児島市立吉野東中学校

2 学年・人数

3年生 3人, 2年生 14人, 1年生 3人

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和5年5～6月 校内教育講演会 プレゼンガイド準備
令和5年7月30日 東菖蒲谷町内会 お花炭づくり研修会
令和5年8月4日 郷土見聞歩こう会 現地ガイド準備
令和5年8月5日 世界遺産ガイド現地研修バスツアー
令和5年9月 吉野兵六会「知っちょいどん講座」全4回
令和5年9～10月 市文化財課 環境フェスタワークショップ全4回
令和5年11月4日 吉野兵六会 吉野ゆめまつり準備・リハーサル
令和6年1月20日 寺山の森再生プロジェクト「お花炭を作ろう」

(2) 発表の日時・場所

令和5年6月10日 校内教育講演会におけるプレゼンガイド
令和5年6月 「寺山炭窯跡新聞」発行
令和5年8月6日 郷土見聞歩こう会 現地ガイド(寺山ふれあい公園)
令和5年10月21・22日 かがしま環境フェスタ2023
ポスターセッション(かがしま環境未来館)
令和5年11月5日 吉野ゆめまつり ポスターセッション(吉野公園)
令和5年11月12日 吉野地域総合文化祭 プレゼンガイド(吉野公民館)
令和5年11月23日 寺山おタカラ発見! 現地ガイド(寺山ふれあい公園)

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

寺山炭窯跡(てらやますみがまあと):江戸時代

(2) 特徴

1858年(安政5年),第11代薩摩藩主島津斉彬の命により,寺山に作られた。斉彬が興した集成館事業の燃料となる木炭を製造。磯に近く,木炭の材料に適したシイやカシの多い寺山が選ばれ,地山を削って凝灰岩で6×5mの炭窯が作られ,火力の高い白炭が焼かれた。2015年7月,「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録。2019年(令和元年)7月大雨による土砂崩れにより崩壊。現在は復旧工事が進んでいる。

5 保存会や地域との連携の具体

・NPO法人 地域サポートよしのねぎぼうず(吉野兵六会)

吉野地域の中高生に向けたワークショップ,吉野地域の遺産をめぐるフィールドワーク,吉野兵六会が主催する「寺山おタカラ発見!」(心岳寺詣に合わせたガイドボランティア)など,さまざまな場面で学習や発表の場を

いただいている。

- ・鹿児島市教育委員会文化財課世界遺産保全係
「世界遺産 寺山の森再生プロジェクト」へ参加。どんぐりの育苗や学校行事への協力をいただいている。今年度は「世界遺産と気候変動」をテーマにワークショップ、イベントでのポスターセッションの場をいただいた。
- ・鹿児島市衛生組織連合会
かごしま環境フェスタ 2023（於：かごしま環境未来館）で、世界遺産と気候変動についての発表の機会をいただいた。

6 活用の取組の工夫した点

学校の教育課程外での有志によるボランティアで活動している。活動のための準備時間の確保が難しかったが、放課後や土曜などを使って学習を進めた。地域の NPO 法人や市教委文化財課などから多大なるご支援をいただき、子どもたちが主体的に郷土を学び、自分たちの住む吉野を誇りに思う態度の育成につながっている。活動も4年目になり、これまでの取組が、教育課程内での学習（総合的な学習の時間）等に広がりを見せ、校区内にある史跡に対する誇りと自分たちの手で守っていくという気概につながっている。これからも、史跡の歴史的な価値の学習にとどまらず、周辺の自然環境に対する学びや地域社会とのつながりを大切に活動を進めていきたい。

7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

僕は初めてのガイドで手元に原稿があることに安心して、お客さんと目も合わさずに説明をしていた。これではAIと変わらないな…と思っていたところ、先生がプロのガイドさんから勉強できる場を準備してくれて、直接話を聞く機会があった。僕はこの好機を逃さずにガイドの態度、発音、話し方について学んだ。原稿だけでなく、自分の知識として話す大切さも学んだ。そんな僕にチャンスがやってきた。環境フェスタでのガイドだ。僕は『1. 「自分の」ガイドを聞いてもらう、2. 相手の興味を誘う話し方をする、3. 相手と会話をする』という3つの目標を立てた。2日間の活動を通して、僕は地域の魅力を伝え、相手と会話するという心に奪われた。これからも僕は身近なところから自分のガイドを広げていきたいと思う。

（ガイドボランティアに参加した2年生男子）